

# 那珂市文化財愛護協会の概要

—設立 50 周年記念講演会に際して—

## 1 設立

本会の設立は、昭和48年9月18日です。「会則」の付則中に規定されている施行の日で、これをもって「設立」としています。以来50年活動してきました。当時は「那珂町文化財愛護協会」でしたが、瓜連町との合併による那珂市誕生に伴い、現在の名称に変更しています。

本会の設立は、当時の会則に、事業として「民俗資料の収集、保存、市の民俗館設立に協力する」(第4条(5))とあり、文化財保護の気運の高まりの中、那珂町歴史民俗資料館(当時)の設立を支援する目的があったようです。

## 2 目的・事業等

本会の目的は、①市内文化財の掘り起こしと調査研究、②文化財の保護、③市の文化財行政への協力、④文化財愛護思想の涵養です(会則第3条)。

そのために各種事業を行なってきました。以前は、研修会のほか、有形文化財、無形文化財、史跡・名勝・天然記念物、民俗文化財の4部会(のち有形文化財・無形文化財を統合して3部会)に分かれて調査研究活動をしていました。また、コロナ禍前は歴史民俗資料館の展示や片付けの手伝いもしていました。

最近は、年10回の研修会が主な事業となっています。研修会には、以下の3種類があります。

①公開研修会；多くの場合外部講師を招聘し、一般にも公開して行なう研修会。

年3回。最近のテーマ例；「咸臨丸で二度アメリカに渡った男—小野友五郎の軌跡」「刀剣の見方と茨城の刀剣」「渋沢栄一と水戸藩」「久慈川の河岸」「牛頭天王信仰と素鷲神社の文化財」「那珂市周辺の古墳文化」など。

②研修会；内部の研修会。講師は会員や歴史民俗資料館職員など。年4回。最近

のテーマ例；「私の『日本遺産—近世日本の教育遺産群—』」「ラストサムライ『戊辰戦争とフランス軍事顧問団』」「マンモス団地・平野台」「古河公方と古河市」「那珂市の文化財と文化財行政」「那珂市の民俗伝統行事」など。

③現地研修会；現地に赴いての研修会。内容的には公開研修会・研修会と連動さ

せることが多い。年3回。最近の研修先例；那珂市内、水戸市、土浦市、かすみがうら市、日立市、笠間市、古河市、埼玉県深谷市など。

## 3 会員

現在29名です。最大(記録のある限り)は平成19年度の83名でしたから、それからすると少なくなっています。

現会員の構成は、①居住地別では、市内がほとんどですが、市外の方も1名、②男女比は、男性62%、女性38%、③年代別では、40代から90代までと広く、最大は70代の52%となっています。